

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人材を育成し、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす

- 1、基礎学力の定着を背景に、広い教養を身につけた上で、健全な議論や思考ができる人材を育成する。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とした新しい国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と自主自律・和親協力を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

## 2 中期的目標

## 1、学力の向上

- (1) 学習習慣の定着を図る。

- ア. 高校生として必要な基礎学力の定着とその方法を認識するためのシステムの開発を進める。
- イ. 学年・教科の壁を越えた学校としてのスタンダードを開発し、明確に示す。

※効果検証 学力生活実態調査の結果： 【実績】平成27年度…入学時A3以上が268名→高3のスタート段階が65名

【入学時】H31 A3以上287名(H28)、294名(H29) 【高3のスタート段階】20名(H27)、47名(H28)

【目標】2019年度…入学時A3以上が約305名→高3のスタート段階が約100名を維持

- (2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証を行い、フィードバックを厳しく行う。

- ア. 上記(1)を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。
- イ. 検討された上記(1)について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証を行い、フィードバックを行う。

※効果検証 授業満足度について、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」を平成29年度20.5%→2020年度25%

- (3) 上記を実現するために必要な学校組織の業務運営の整備を進める。

- ア. 上記(1)(2)を達成するために、スクラップアンドビルドを認識し、必要な業務内容を精選する。
- イ. 特に、カリキュラム改変に伴う諸問題を解決しながら、教員が生徒とかかわれる時間を確保する。

## 2、グローバル時代に対応する教育システムの開発

- (1) 4技能を中心とした英語教育の改革を行う。

- ア. 「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、新しい英語教育システムを実施する。
- イ. 外部との連携を図り、生徒とともに本校教員も学び続ける

- (2) 上記(1)の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。

- ア. スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。
- イ. 開発したツールを使用するための授業方法として、まずは日本語のディベートやプレゼンテーションなどを行う。

ウ. ロジカル・クリティカルシンキングの理解・実践を通常授業の中に取り入れるために、各教科で議論を始め、継続する。

- (3) 海外留学生の受け入れ態勢を整備し、海外語学研修や国内キャンプ・修学旅行などの機会を充実させる。

- ア. より多くの留学生に来訪を促し、本校生徒との交流の機会を増やすシステムを開発する。
- イ. 海外語学研修や修学旅行については、事前事後の学習を通じて実感を通じた理解を進める。

- (4) 国際科(グローバル科)開設にあたり、さらなる英語教育の充実を図る。

- ア. 外部評価として英語学力調査を導入する。
- イ. 「グローバル人材育成委員会」を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。

1年生時 Listening, Writing, Reading 目標					
H30		2019年度		2020年度	
B1	1名	B1	2名	B1	3名
A2	70名	A2	75名	A2	80名
A1	350名	A1	360名	A1	370名

2年生時 Listening, Writing, Reading 目標					
H30		2019年度		2020年度	
B1	8名	B1	9名	B1	10名
A2	150名	A2	155名	A2	160名
A1	350名	A1	360名	A1	370名

## 3、進路・生徒指導の強化

- (1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。

- ア. 国公立大学への進学実績を伸ばす。
- イ. 海外大学への進学をめざすシステムを構築する。

※効果検証 ア:平成29年度62名を2020年度100名にする。

イ:2020年度は、海外大学進学希望者に対する合格者の割合として合格率75%以上をめざす。

- (2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア. 基礎的な生活習慣の定着を進める。
- イ. 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。

※効果検証 ア:年間遅刻者数を平成29年度約4500件を、2020年度には約3000件まで減らす。

イ:自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」2020年度には78%以上にする。

- (3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。

- ア. 部活動を中心に地域のイベントへの協力などを進める。
- イ. ホームページ等の電子媒体及び紙媒体の情報発信の充実に努め、本校を希望する方々や同窓生の方々への理解の向上をはかる。

※効果検証 イ: HP 更新回数 H30 30回以上 → 2020年度 70回 及び

学校教育自己診断「ホームページをよく見る」における平成29年度16.9% → 2020年度50%

## 4、学校経営推進費事業の活用

- (1) 平成26・27・28年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。

- ア. 主体的・対話的な授業展開ができることを目的に、図書室の活用をはじめ、各教室の環境整備を図り、新しいメソッドの浸透を進める。
- イ. 改修された職員室を経営戦略室の位置づけとして、意見交換を進めるスペースに変えていく。
- ウ. 自習室・進路指導室の機能向上を図るとともに、教職用ICT機器の充実と研修体制(特に若手の育成)の確立を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・全体として、生徒・保護者・教職員すべてのアンケート項目を3項目を減らし30項目とし、回答の負担を軽減した。生徒及び保護者アンケートの肯定的評価が大幅に減った(生徒肯定的評価増項目6、減項目24、保護者肯定的評価増項目4、減項目26)のに対し、教職員アンケートの肯定的評価は大幅に増えた。(教職員肯定的評価増項目21、減項目9)教職員の考える学校の方針やビジョンが実際の教育活動や広報活動において、生徒・保護者に効果的に伝わっていない結果だと考えられる。次年度は教育活動・広報活動全般にわたって学校の教育方針を具体的かつ分かりやすく生徒・保護者に伝え、理解してもらうことが第1の課題だと考えられる。</p> <p>・生徒による評価で肯定的評価が大きく下がったのは、「教育方針をわかりやすく伝える」(70.3→57.2%)、「授業はわかりやすく楽しい」(61.4→49.2%)、「自分の考えをまとめ発表する」(91.1→80.1%)である。逆に増えたのは、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会」(60.6→75.9%)、「生徒会を中心にした自主的活動」(68.4→77.2%)であった。また、学年としての評価にも差があり、1年は肯定的項目が増え、2、3年は減るといった結果となった。</p> <p>・保護者による評価で肯定的評価が大きく下がったのは、「授業参加や行事に参加」(83.0→59.6%)、「教育情報の提供の努力」(85.4→70.3%)、「教育方針の伝達」(84.0→70.4%)である。逆に増えたのは、「HPを良く見る」(29.5→47.2%)、「災害への対応が知らされている」(51.8→65.2%)となり、保護者へのより積極的かつ時機を得た広報活動が求められていることが認識された。</p> <p>・教職員による評価で大きく上がったのは、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会の配慮」(46.7→82.5%)、「教育活動の日常的な話し合い」(60→75.6%)、「HP活用・充実」(70.5→85.7%)であった。逆に下がったのは、「国際交流・異文化理解教育の充実」(86.7→65.9%)、「英語教育の充実」(93.3→75.0%)であった。これは国際教養科からグローバル科への完全移行のため、また、国際交流・異文化理解の科目の削減や機会の減少、また、土曜特設レッスンの閉講などが影響したと考えられる。</p>	<p>第1回大阪府立箕面高等学校 学校運営協議会 (平成30年5月30日)</p> <p>1 学校経営計画及び学校全体の雰囲気について</p> <p>・システム構築等、仕事としては業務量が増加されることが予想されるが、国や府による働き方改革とのバランスについてはどうなっているのか教えてほしい?</p> <p>(回答) 昨年度まで実施していた土曜特設レッスンのノウハウや教授方法などのシステムを各学年や各教科へ広げたり、各分掌において分掌業務の見直しをしている。学校行事等では、生徒を活躍の中心にしながら限られた時間で効率よく学校行事に取り組むためにはどのようにすればよいか、などを教員と生徒が一緒になってすすめている。また、一斉退校日やノークラブデーを設けて無理のない形で進めている。</p> <p>・学校経営計画全体からも伝わってくるが、グローバル時代を背景とした新しい教育の研究開発展開に大変力を入れている。また、入学してくる中学生の実態も変化している中、地域からも大きく期待をされている。</p> <p>2 授業について</p> <p>・これまでは実績がフォーカスされていたような印象を受けたが、授業見学もさせてもらって、以前からある箕面高校の良さがしっかりつながっているなど嬉しい気持ちになった。</p> <p>・総合的な学習の取り組み等、府内でも先進的な授業実践をされている。進学実績も大いに期待できる。</p> <p>3 HPや広報活動、部活動について</p> <p>・HPなどを有効活用して学校としてクラブ方針やクラブ活動の様子がリアルタイムでわかるような仕掛けは、どうなっているのか?</p> <p>(回答) HPは今年度、校長マネジメント予算から支出して改訂予定。発信回数も50回以上をめざす。行事や部活動についてもHP、紙ベース等で機会あるごとに発信していく。部活動については、働き方改革の中、生徒保護者地域学校教員みんなで考え、より良いクラブ活動のあり方を検討していく。</p> <p>第2回大阪府立箕面高等学校 学校運営協議会 (平成30年11月6日実施予定)</p> <p>・授業についていけない生徒へのアプローチはどのように考えているか?</p> <p>(回答) 生徒全体を伸ばしていくために、教材は3段階(標準、スローラーナー用、発展)を用意することが必要で、スローラーナーに合わせる授業はよろしくない。そういう意味でもっと宿題など生徒が主体的に行う課題が必要。発表・プレゼン等については、自己評価、相互評価、(教員による)総括的評価を入れている。</p> <p>・(現在10名ほどの)海外進学に対する学校側のスタンスはどのように考えておられるか?</p> <p>(回答) 希望する生徒の進路実現を大切に、日本の大学でも海外の大学でも、論理的思考力をつけることは同じであり、海外の場合にはそのうえに語学力を補っていききたい。</p> <p>・(ご意見)私学入試の厳格化や現1年生から導入される(大学入試)新テストのこともあり、多くの高校で入りたい大学よりも入れる大学選びにシフトする傾向が強い。そういう点で指定校推薦に大きく流れる高校もある中、箕面高校はそれほど大きく増加しなかったのは、生徒と教員(担任)とのコミュニケーションがうまく取れていることの表れである。</p> <p>・働き方改革に絡んで、学校が忙しすぎるという状況の下、業務軽減を進めていく方法やクラブ活動についてどのように考えているのか?</p> <p>(回答) 教育庁からの一斉退校日導入やクラブ活動を教育庁の方針に基づき、働き方の中身や部活動のあり方を検討し、教職員の働き方改革を進めている。</p> <p>第3回大阪府立箕面高等学校 学校運営協議会 (平成31年2月5日)</p> <p>・平成30年度学校経営計画及び学校評価(案)及び平成31年度学校経営計画及び学校評価(案)については承認させていただく。</p> <p>・生徒指導において遅刻は減っていないということだが、遅刻は何人かのリピーターが原因の場合が多いと考えられるので、その対策を考えた方が良いと思われる。</p> <p>・グローバル科に変わり、箕面高生が海外や国内での語学研修は活発だが、逆に姉妹校もなくなり、留学生の受け入れが少ないようなので、今後の箕面高校の国際交流のあり方について方針を考えられて、学校経営計画にも盛り込む、そして実行していく方向について考えてみてほしい。</p> <p>・海外進学についての傾向は変わらないようなので、引き続き丁寧な指導をよろしくお願ひしたい。</p> <p>・学校運営や生徒の様子に大きな変化はないように思われるが、学校教育自己診断の結果をみると、保護者、生徒の学校に対する全般的に少し満足度が下がっているの、生徒・保護者への情報提供の適切な方法、機会、頻度を考察いただき、情報発信を丁寧にお願ひしたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																																																																														
学力の向上	<p>(1) 学習スタンダードを作るための基盤整備</p> <p>(2) 教員育成のための研修・勉強会の立ち上げと整備</p> <p>(3) 学校組織の整備</p>	<p>(1) 学習スタンダードを整備するための素材集め及び議論を始める。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、新採者育成を含めた若手教員育成勉強会を5月より首席を核に、教科横断的に毎月1回の頻度で実施する。また、授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証を明確に行い、フィードバックを明確にする。</p> <p>(3) カリキュラム改変に伴い、学力がより一層向上するよう、学校組織における分掌・委員会を整備し、人事計画については中長期の視点に立った人材配置を行う。</p>	<p>(1) 本年度中にスタンダードの骨子の完成をめざし教科での議論を始める。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・勉強会方針の完成 ・新採者人材育成ルートマップの完成 ・学習指導の保護者アンケートにおける「よくあてはまる」20.5%→22%</p> <p>(3) 本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感83.5%→90%以上(生徒) 教職員の学校組織に関する質問の肯定感61%→75%(教職員)</p>	<p>(1) 英・国・芸・保体については骨子がほぼ完成。(○)</p> <p>(2) 勉強会は年間5回、首席を中心に実施(○) ・新採者管理職・首席・教科メンターによる育成指導学期中毎週実施(○) ・学習指導の保護者アンケート(3項目平均)「よくあてはまる」17.0%(△)</p> <p>(3) 全般に関する質問で肯定感→85.5%(生徒)(△) 教職員の学校組織に関する質問の肯定感75.6%(教職員)(○)</p>																																																																														
グローバル時代に対応する教育システムの開発	<p>(1) TOEFL iBTを中心とした英語教育の改革を行う。</p> <p>(2) 上記(1)の実現に必要なスキルである「ロジカル・クリティカル・シンキング」を理解・実践する。</p> <p>(3) 海外留学生の受入態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行の機会を充実させる。国際科(グローバル科)開設にあたり、さらなる英語教育の充実を図る。学校広報システムの確立</p>	<p>(1) 国際グループを中心に、GTECの現状分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。また、「箕面シラバス」に関して、特設レッスンの内容を通常授業に展開し、成果検証を実施する。</p> <p>(2) 具体的な思考ツールの開発については、他校や企業などで使われているノウハウを吸収・研究し、本校にあったカリキュラムを構築する。</p> <p>(3) 「海外留学生受入方針」を明確に整備し、具体的な教育目標と数値目標を設定する。また、海外語学研修については、内容を再検討し、品質が低下しないようにする。</p> <p>(4) ア. 成果指標の新たなツールとして英語学力調査を新入生全員に受検させる。 イ. 「グローバル人材育成委員会」を中心に、箕面高校ならではのカリキュラム等を構築する。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・骨太英語について「箕面シラバス」の共有を進める。授業アンケート項目8,9について、3.25(H29:3.17、2回目)</p> <p>(2) 上記(1)の内容と重複する。</p> <p>(3) 以下の遂行をめざす。 ・海外語学研修の更なる内容検討と整備事後アンケート満足度90%</p> <p>(4) 以下の遂行をめざす。 ア. 英語学力調査全員受検</p> <table border="1" data-bbox="1039 1053 1491 1246"> <tr> <th colspan="4">Listening, Writing, Reading 目標</th> </tr> <tr> <th colspan="2">1年生</th> <th colspan="2">2年生</th> </tr> <tr> <td>B1</td> <td>1名</td> <td>B1</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>70名</td> <td>A2</td> <td>150名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>350名</td> <td>A1</td> <td>350名</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">Speaking 目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 1291 1491 1409"> <tr> <th colspan="4">1年生</th> <th colspan="4">2年生</th> </tr> <tr> <td colspan="2">Grade6~Grade7</td> <td>2名</td> <td colspan="2">Grade6~Grade7</td> <td colspan="2">5名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Grade4~Grade5</td> <td>50名</td> <td colspan="2">Grade4~Grade5</td> <td colspan="2">55名</td> </tr> </table> <p>イ. 「21世紀型能力」カリキュラムを開発し、周知する。(年内)</p>	Listening, Writing, Reading 目標				1年生		2年生		B1	1名	B1	8名	A2	70名	A2	150名	A1	350名	A1	350名	1年生				2年生				Grade6~Grade7		2名	Grade6~Grade7		5名		Grade4~Grade5		50名	Grade4~Grade5		55名		<p>(1) 骨太英語について、授業アンケート項目8,9について2回目3.02(△)</p> <p>(3) 海外語学研修の更なる内容検討と整備事後アンケート満足度93%(◎)</p> <p>(4) ア英語学力調査2回全員受検実施。 (1回目) <b>Listening, Writing, Reading</b></p> <table border="1" data-bbox="1633 1009 1990 1202"> <tr> <th colspan="4">Listening, Writing, Reading 結果</th> </tr> <tr> <th colspan="2">1年生</th> <th colspan="2">2年生</th> </tr> <tr> <td>B1</td> <td>35名</td> <td>B1</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>284名</td> <td>A2</td> <td>342名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>340名</td> <td>A1</td> <td>385名</td> </tr> </table> <p><b>Speaking</b></p> <table border="1" data-bbox="1633 1231 1990 1454"> <tr> <th colspan="4">Speaking 結果</th> </tr> <tr> <th colspan="2">1年生</th> <th colspan="2">2年生</th> </tr> <tr> <td>Grade6~7</td> <td>8名</td> <td>Grade6~7</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>Grade4~5</td> <td>225名</td> <td>Grade4~5</td> <td>261名</td> </tr> </table> <p>(◎) イ 開発が考慮・検討中で周知には至っていない(△)</p>	Listening, Writing, Reading 結果				1年生		2年生		B1	35名	B1	19名	A2	284名	A2	342名	A1	340名	A1	385名	Speaking 結果				1年生		2年生		Grade6~7	8名	Grade6~7	8名	Grade4~5	225名	Grade4~5	261名
Listening, Writing, Reading 目標																																																																																		
1年生		2年生																																																																																
B1	1名	B1	8名																																																																															
A2	70名	A2	150名																																																																															
A1	350名	A1	350名																																																																															
1年生				2年生																																																																														
Grade6~Grade7		2名	Grade6~Grade7		5名																																																																													
Grade4~Grade5		50名	Grade4~Grade5		55名																																																																													
Listening, Writing, Reading 結果																																																																																		
1年生		2年生																																																																																
B1	35名	B1	19名																																																																															
A2	284名	A2	342名																																																																															
A1	340名	A1	385名																																																																															
Speaking 結果																																																																																		
1年生		2年生																																																																																
Grade6~7	8名	Grade6~7	8名																																																																															
Grade4~5	225名	Grade4~5	261名																																																																															
進路・生徒指導の強化	<p>(1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。</p> <p>(3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。</p>	<p>(1) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導室を中心に定期的な研修などを行う。</p> <p>(2) 生徒会を中心とし、今まで構築してきた生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討していく。</p> <p>(3) 総務Gを立ち上げ、国際グループや骨太英語、部活動などを通じ、地域との連携を整備、強化していく。特にホームページに関しては、組織的な情報発信を行う。また、校内・校外美化の継続的な実施と地域との連携を進めていく。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・国公立大学合格者 平成29年度62名→80名 ・海外大学への進学 平成29年度11名→合格率50%</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア) 箕面高校進路指導システムの構築と徹底。遅刻者数4591名→4000名。 イ) 生徒会・行事における基本方針の作成自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」75%以上(H29 72.8%)</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率H29 29.5%→35%。HPの部分的改変及びHP更新回数年間30回以上。</p>	<p>以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・国公立大学合格者平成29年度62名→49名(△) ・海外大学への進学平成30年度希望者12名→合格率63%(◎)</p> <p>以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア) 箕面高校進路指導システムの構築と徹底。遅刻数4781名。(△) イ) 生徒会・行事における基本方針の作成自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」84.5%(H29 72.8%)(◎)</p> <p>(3) 学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率H29 29.5%→47.2%。(◎) HPの部分的改変及びHP更新回数年間50回以上実施。(◎)</p>																																																																														
学校経営推進費の活用	<p>(1) 平成26・27・28年度の上記事業を活用して、以下の事項に取り組む。</p>	<p>ア. 主体的・対話的な授業展開ができることを目的に、図書室の改修をはじめ、各教室の環境整備を図り、新しいメソッドの開発を進める。</p> <p>イ. 国際科(グローバル科)設置に伴い職員室の改修を図り、経営戦略室の位置づけとして、意見交換を進めるスペースに変えていく。</p> <p>ウ. 自習室・進路指導室の機能向上を図るとともに、教職用ICT機器の充実と研修体制(特に若手の育成)の確立を図る。</p> <p>エ. 以上をもとに、各分掌、学年において負担軽減策を考え実践する。</p>	<p>・改修した図書館の積極的な活用をめざす。具体的には、 ① 図書館の授業における稼働率をあげる。(H29:36%→H30:40%) ② 図書館の来館者数を増やす。(H29:6.1名/1日→H30:7.5名)</p> <p>・次世代を担う人材を育成するために、職員室におけるミドルリーダー研修の実施とそれに伴う意見交換会の実施(年間5回以上実施予定)</p>	<p>図書館の積極的な活用</p> <p>① 授業における図書館の稼働率は31%にとどまったが、これは同様の効果が得られる視聴覚室の活用が進んだことによる。図書館と視聴覚室の稼働率の合計は55%を超えるため、目標を上回っている。(◎)</p> <p>② 図書館の来館者数12.8名(◎) ・ミドルリーダー研修の実施とそれに伴う意見交換会(2月実施を含め5回)(○)</p>																																																																														